

中濃農林事務所の普及活動状況 令和5年4月25日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■新規就農支援 家族経営協定を締結

家族で農業経営を営む関市内の土地利用型経営農家が、家族一人ひとりが意欲的に経営に関わることを目的とした家族経営協定を結び、4月21日に調印式が関市役所で行われた。

関市役所と中濃農林事務所の立会いのもとで調印が行われ、農業普及課長から激励の言葉が送られた。今回の協定によって農業経営に参画することとなったご子息からは、「就農1年目ですが、どんどん農業経営に参画していきたい」と抱負が語られた。

農業普及課では、農業経営支援などを通じて家族経営協定が意義深いものとなっていくよう、今後も支援を継続する。



【調印式】

■新規就農者研修 研修修了式と入所式

4月6日、JAめぐみの本店にて、JAめぐみの新規就農者研修施設の修了式、入所式が行われた。研修施設はJAめぐみの管内に2カ所（「地域振興作物栽培実証圃場」／関市、「郡上トマトの学校」／郡上市）設けられている。

式では、研修を修了し、郡上市で夏秋トマト経営を開始した修了生の研修報告があり、続いて今年関市の研修施設に入所し、いちごやなすの研修を受ける2名の研修生、郡上市でトマトの学校に入校する1名の研修生から抱負が語られた。

JA組合長からは就農、研修開始について励ましの言葉があり、農林事務所も、就農現場、研修圃場で関係機関と連携して指導・支援し、営農計画の実現をサポートしていくことをあいさつした。



【抱負を語る入所者】

■JAめぐみの就農塾 就農塾が開講

4月20日、JAめぐみの本店にて令和5年度就農塾開講式が開催された。JAめぐみの主催の就農塾は、中濃管内の主要な農産物の栽培技術及び農業経営の基礎知識を身につけ、新規栽培者として農産物の生産に取り組んでもらうことを目的としている。

今年度は、24名の受講生がさといも・なす・栗の各コースに分かれ、年間10回程度の研修を受講する。研修後は就農して生産組合への加入や直売所への出荷を目指す予定である。

農業普及課では、今後、各コースの講師等として就農塾を支援していく。



【開講式】

(地域支援係)

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■飼料用米 発芽率調査

中濃地域では、水田活用の直接支払交付金等を活用し、飼料用米が約 110ha 栽培されている。農研機構が開発した「北陸 193 号」は 800kg/10a 以上の粗玄米収量が期待できる多収性品種で、管内でも飼料用米として導入されているが、種子の休眠性が強く、休眠打破処理が必要である。

4 月に生産者 2 名からの依頼があり、農業普及課にて休眠打破処理済み種子の発芽率を調査し、生産者へ情報提供を行った。やや発芽率が低い種子については、再精選や催芽方法などについて助言した。

農業普及課では、今後も土地利用型農業の担い手を支援していく。 (地域支援係)



【発芽率調査】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■円空さといも 瀬尻小学校総合学習支援

関市立瀬尻小学校では、毎年 3 年生が総合的な学習の時間を利用して、地域の特産品である円空さといもについての学習を行っている。

4 月 12 日に行われた種芋の植え付けには、児童約 60 名が参加し、地域の生産者や J A めぐみの、農林事務所が講師となり、サトイモ栽培の概要を説明した後、植え付けの支援を行った。

初めてサトイモの種芋を植え付けた児童らは、種芋の向きや適切な穴の深さに戸惑っていたものの、全員が無事植え付けることができた。終了後には、「早く芽が出てほしい」、「秋に収穫するのが楽しみ」などの声が聞かれた。

今後、ダツかきや収穫体験、選果場見学なども計画されており、関係機関とともに支援する予定である。 (地域支援係)



【植え付け作業】

■キウイフルーツ 生育状況及び今後の作業を確認

ほらどキウイフルーツ生産部会では、4 月 10 日に部会長、J A を交えてキウイフルーツの生育や作業等の打ち合わせを行った。

気温が高めで推移しているために生育が早く、5 月中旬頃には開花が予想されること、花腐れ細菌病を対象とした共同防除を 4 月中旬に実施することを確認し、薬剤防除を減らす方法として期待できる環状剥皮の実証圃設置について調整した。

また、情報連絡手段の効率化を図るため、新たに部会を対象とした LINE グループを立ち上げた。

農業普及課では、作業の効率化を進めるため、実証圃の効果確認、LINE による情報提供を進め、ほらどキウイフルーツ生産部会の活動を支援する。 (地域支援係)



【新梢の蕾を確認】